

# 民主化闘争情報

No. 897  
2013年11月26日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

11月22日の衆議院国土交通委員会において、野島社長を参考人招致してのJR北海道問題の集中審議でJR総連傘下のJR北海道労組（北鉄労）への革マル浸透問題について質疑がなされたことは前号でお伝えしたが、その他にも現段階に及んでもなおJR北海道労組に対する遠慮を伺わせる経営サイドの答弁が続いた。それに対し議員からは、そうしたJR北海道労組に対する配慮からの決別、そして歪んだ労使関係からの脱却を求める発言が相次いだ。

## 「JR北海道労組に対して毅然とした対応をすべきである！！」

### JR北海道の歪んだ労使関係の是正を求める発言相次ぐ

アルコール検査については、この間JR北海道労組が「実施は義務ではない」として実施を拒んできた実態と、それが故に経営判断に踏み込めないJR北海道の実態を明らかにしてきたが、委員会審議の2日前にようやく完全実施することになった実態が明らかになった。

以下特徴的なやり取りを掲載する。

#### ■アルコール検査を委員会2日前から完全実施したことの質問に対して

→アルコール検査は決して組合に配慮してということではなく、このアルコール検査は会社の考えで実施してきたところ。昨今いろいろな批判を受けていることから、1600名のうち免除されていたのは11名だったが、一昨日から例外なしに実施してきたところ。

#### ■JR北海道労組の平和共存否定の運動が職場での人間関係を悪化させるのではとの質問に対して

→JR北海道労組がそのような運動方針を掲げ、ごく一部の職場でそうした事象があるということは聞いているが、そのことによって会社の業務遂行上、問題になるという事象はないと考えている。仮に発生した場合は厳正に対処していく。

#### ■JR北海道労組に対して毅然と対応していくべきとの発言に対して

→労働組合とは意見の対立もある。そこは是々非々で、そして会社の運営責任者としてきちっと会社のかじをとっていききたい。

#### ■JR北海道内にある4組合と合同で安全協議を行う考えがあるかとの質問に対して

→現在のところそのような考えはない。

翌日の新聞各紙はこぞって衆議院国土交通委員会におけるJR北海道野島社長の参考人招致を取りあげた。そして、「労組へ遠慮 対策不十分」「組合問題の核心に触れず」「外部人材登用し 労使関係改善を！」といった見出しを付ける記事や、「労働組合の問題をめぐり4つの組合を包括した安全協議の場を設けるよう求めるも、社長が難色を示した。この程度の提言に尻込みするようでは改革の実行力が疑われる」と社説で論じるなど、この期にJR北海道労組に偏った歪んだ労使関係から決別を図らなければJR北海道の再生はあり得ないとの論調が相次いで示されている。

JR北海道が決断する時期は迫っている。

## JR北海道はJR北海道労組（北鉄労）に偏った歪んだ労使関係からの決別を図るべき！！